

## 知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

### 1 団体名

東京交通サービス（株）

### 2 実施日時

令和元年7月18日（木） 14時02分～14時16分

### 3 出席者

- ・団体側出席者：石井社長、内山総務本部長、市川企画担当部長（交通局）
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、  
小林行政改革推進部長

### 4 議事概要

#### ○小池知事

東京2020大会期間中は終電延長することによって、保守管理にしわ寄せがくると聞いているが、その体制はどうするのか。

#### ○石井社長

鉄道の検査予定を変えるには、あらかじめ2～3年前から予定を少しずつずらし、来年の大会期間中に作業が来ないように調整しなくてはならない。既に、その調整を今年から始めており、期間中には作業は一切行わない。その代わりに、交通局と一体となって、何かあったときすぐ対応できるような体制を組んでいる。

#### ○小池知事

マラソンは朝6時スタートだと、現実的には、関係者は前日から待機することになるだろう。ご協力をよろしくお願いしたい。

現在どの分野でもIoT、AIと言われており、鉄道、交通の分野などは、最も適していると思うが、推進体制はどのようになっているか。

#### ○石井社長

鉄道は比較的早くから、コンピュータを使った検査システムを車両に積んで、すぐに指令センターに情報が来るという対策ができています。

新しい車両が増えてくれば、そうした検査も問題なく行えると思っているが、地上設備は車両ほどはシステム対応ができていない。地上設備は障害が起きた場所に駆け付ける必要があるため、20～30分以内に現場に到着できるよう、十分な体制をとっている。

○武市財務局長

固有として新規に採用した方の勤続年数は短いのか。

○内山総務本部長

このところ20人以上採用しているため、中には会社にもうまく馴染めずに辞める人も出てきている状況である。

今年からメンターの仕組みを新たに入れ、精神面のケアも含め、きちんと1人1人を育てていこうと考えている。

○武市財務局長

全体として、必要な社員の数の確保はできているか。

○内山総務本部長

今のところ確保できているが、景気もよく、他社も積極的に採用しているため、広告を打つなど、採用活動には懸命に取り組んでいる。

○遠藤総務局長

先日、横浜市営のブルーラインで、線路に機材を置き忘れそれに乗り上げるにより大事故となった。それに関して何か交通サービスで気を付けている、取り組んでいることはあるか。

○石井社長

交通局では、機材を置き忘れると発車しない仕組みにしている。ただ、都も最初からその仕組みだったのではなく、以前に他社で横取り装置の事故があった際に、都も対策を講じた。

その対策が今もうまくいっており、他社の事故についても常に自社に置き換えて気にしているため、安全対策に積極的に手を打っていく。